

躍 進 す る 図 書 館

明 治 大 学 図 書 館

館長 野上 修市

新図書館の精神（スピリット）を表現するかのごとく、「肝心な点は感動すること、愛すること、望むこと、身ぶるいすること、生きることです。」（ロダン）というエントランス銘文を持つ中央図書館が開館した。本学図書館の歴史において、新しいページがめくられることになったわけである。2000年度の図書館の動きを振り返ると、すべてのエネルギーが新図書館のオープンのために、つぎ込まれたと総括することができよう。



ところで、この年次報告書は、本学図書館の2000年度における諸活動の記録文書として、作成されたものである。したがって、本報告書の公表は、図書館利用者および本学関係者に図書館活動の現実をみていただき、その評価と意見を拝聴しながら、次年度以降のあるべき図書館の姿を見通す材料にするという意味を持っている。以下、2000年度図書館活動の主な内容を列挙しておこう。

- 1 蔵書の充実・個性化（専門図書・学習用図書・特別資料）。
- 2 電子図書館機能の整備（商用データベースの活用・CD-ROM サーバの充実）。
- 3 利用者サービスの向上（開館日・時間の延長・デジタルコピー機の設置）。
- 4 図書館利用教育の実施（各種の図書館利用案内等のPR）。
- 5 図書館職員の質的向上（研修活動の充実）。
- 6 書庫スペースの有効利用。
- 7 図書整理の改善と資料保存の対策（図書の発注・整理・装備作業のアウトソーシング）。
- 8 図書館利用法の変更（ライブラリーカードの廃止とそれに伴う学生証・教職員証の活用）。
- 9 外国図書館への協力・支援。
- 10 「図書館活用法」の開講。
- 11 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの協定の実施。
- 12 「新図書館総合検討委員会報告書」の提出。
- 13 私立大学図書館協会会長校の活動。

以上の図書館活動の詳細な内容については、本報告書の関係箇所をお読みいただきたい。そして、図書館活動へのいっそうのご理解とご協力を賜れば、幸甚に存ずる次第である。